

空知南支部女性部の学習会レジュメ

2011年10月4日(火) 15:35~17:05

岩見沢まなみーる

演題「教育の現場から食を考える」

1. はじめに

- ★自己紹介：地方公務員の専門職としての6年
先生と呼ばれて19年
フリーランスの生活8年目

- ★ホームページ <http://www2.plala.or.jp/kskikaku>
メールアドレス kawait@sea.plala.or.jp

★本日伝えたいこと

- ・二者択一を求める危うさ→勝ちか負けか、ネコ派かイヌ派か、賛成か反対か
- ・背景や歴史を知る大切さ→「賢者は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ」
- ・自分の頭で考える訓練→思考停止に陥らない

2. 食育を巡る動き

- (1) 「食育」とは
- (2) 「食育」を安易に口にする研究者
- (3) 食育ブームの背景と食育利権

3. 混乱をもたらす食事バランスガイド

- (1) 疑問だらけの食事バランスガイド
- (2) 食事バランスガイドを作った人々
- (3) 数々の矛盾

4. 北海道の学校給食の現状と課題

- (1) センター方式は本当に悪いのか？
- (2) 地産地消の落とし穴
- (3) 栄養教諭制度創設のいきさつ

5. 食の安全にどう向きあうか

- (1) 岩見沢学校給食の事件
- (2) 放射能汚染から守る食の安全

食品の放射能汚染にどう対処するか？（以下⑤の文献（194 ページ）より引用）

- ①食品汚染の実態を知ること
- ②たとえ、放射能汚染が国の輸入許可基準以下のものであっても、それなりに放射能が含まれている食品は、あえてその消費を奨励しないこと。
- ③汚染の実態はできるだけ公表し、最終的には消費者の選択の自由を保証すること。
- ④汚染食品、体内摂取にともなうリスクを評価する際には、いたずらに「放射能に対する恐怖感」といった感情に溺れず、科学的な評価結果をふまえること。
- ⑤食品の放射能汚染に対する関心を持続し、供給者との間に好ましい緊張関係を保つこと。

6. おわりに

（1）選ぶ力よりも作る力

- ・「国や企業、マスコミに踊らされない」食生活
- ・食の安全をなるべく他者にゆだねない食生活
- ・食料を無駄にせず、美味しい食生活

（2）感性よりも理性を磨く

- ・教育のバックボーンとなるのは、学問の蓄積
- ・情報の選択や間違った情報を見抜く能力を育てる。

（3）基礎となるのは、“読み書きそろばん”

参考文献

- ①森博嗣『科学的とはどういう意味か』（幻冬舎新書、2011年）
- ②安斉育郎『福島原発事故 どうする日本の原発政策』（かもがわ出版、2011年）
- ③安斉育郎『だまし世を生きる知恵 科学的な見方・考え方』（新日本出版社、2010年）
- ④安斉育郎『こっくりさんはなぜ当たるのか』（水曜社、2004年）
- ⑤安斉育郎『家族で語る食卓の放射能汚染』（同時代社、1988年）→増補改訂版（2011年）
- ⑥安斎育郎『これでわかるからだのなかの放射能 正しく知ろう！放射能汚染と健康被害』（合同出版、2011年）
- ⑦安斎育郎『騙される人、騙されない人』（かもがわ出版、2005年）
- ⑧森本芳生『「食育」批判序説』（明石書店、2009年）
- ⑨河合知子「地域農業を主軸にした食育と自治体農政」中嶋信編『自治体農政の新展開』（自治体研究社、2011年）
- ⑩村井弦斎『食道楽 上・下』（岩波文庫、2005年）
- ⑪文藝春秋編『日本の論点 2010』（文藝春秋、2010年）
- ⑫日垣隆『世間のウソ』（新潮新書、2005年）
- ⑬河合知子他『問われる食育と栄養士 学校給食から考える』（筑波書房、2006年）
- ⑭河合知子『管理栄養士になる方法』（筑波書房、2010年）